



THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

山梨県甲府市中央5丁目4-11
山梨Y.M.C.A.青少年センター
〒400-0032 TEL 055-235-8543
FAX 055-235-8553

国際会長主題：ともに、光の中を歩もう
アジア太平洋地域会長主題：ワイズ運動を尊重しよう
東日本区理事主題：広げよう ワイズの仲間
あずさ部長主題：継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう
甲府21クラブ会長主題：実現可能な目標定め 山梨YMCAを支援しよう

Henry Grindheim (ノルウェー)
Tung Ming Hsiao (台湾)
栗本 次郎 (熱海)
大野 貞次 (東京西)
佐藤 重良

甲府21ワイズメンズクラブ
2018年4月会報
強調月間
LT

今月の聖句

主は羊飼、わたしは何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ 憩いの水のほとりに伴い 魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく わたしを正しい道に導かれる。

詩編 23.1-3 功刀 弘 選

会長挨拶

甲府21ワイズメンズクラブ会長 佐藤重良

3月の第1例会には鎌田メンの紹介で駿台甲府高校2年生の作田留菜さんに卓話をいただき、大変感動いたしました。

作田さんが自ら進んで希望して約3ヵ月間、東南アジアの留学に参加し、その体験したことが全て驚くことばかりであったとのことです。

日本国内では、経験できない事ばかりで貧富の差が大きいことや水がないこと、電気がないこと、学校があっても先生がいないこと、お金がないこと、食べ物がいないことなど非常に貧しい集落で生活をしたそうです。しかし子供たちは一生懸命に勉強したいと言い、覚えることもすごく早いそうです。また非常に優しい心を持っていると作田さんは感じたそうです。

このような実体験で見ること聞くこと全てが作田さんの心と脳裏に刻まれたことでしょう。作田さんが体験したことがこれからの人生(進路)に大きな影響を及ぼすかもしれません。

作田さん、ありがとうございました。今後さらに見て、聞いて、学んで、友を多く持ち、楽しみながら世の中に貢献していただきたいと感じております。



挨拶する佐藤会長

2018年3月6日=山梨YMCA青少年センター

2018年4月例会プログラム

日時：2018年4月3日(火) 19:00～

会場：山梨YMCA青少年センター

司会：奈良田和也メン

- | | |
|----------------|--------|
| ①開会点鐘 | 佐藤重良会長 |
| ②ワイズソング・ワイズの信条 | |
| ③今月の聖句 | 功刀 弘メン |
| ④会員一言 | 功刀 弘メン |
| ⑤会長挨拶 | 佐藤重良会長 |
| ⑥ゲスト・ビジター紹介 | 佐藤重良会長 |
| ⑦ハッピーバースデー | |
| ⑧ワイズディナー | |
| ⑨会員卓話 | 米長晴信メン |
| ⑩諸報告 | |
| ⑪YMCAの歌 | |
| ⑫閉会点鐘 | 佐藤重良会長 |

【卓話者 米長晴信メン プロフィール】



1965年10月21日生まれ。山梨県富士川町出身。上智大学文学部ドイツ文学科卒。フジテレビ入社後は報道部門を歩み、社会部やベルリン支局長などを担当。元参議院議員。英検1級、TOEIC 960点。故米長邦雄永世棋聖の甥、将棋2段。

在籍者数	26名	項目	ニコニコボックス	バザー収益金	クリスマスオークション	BCコンサート募金	街頭募金ファンド	切手
第1例会出席者数	18名	目標値	250,000	50,000	50,000	50,000	50,000	5,000g
第2例会出席者数	12名	3月の計	11,200	—	73,225	—	—	1,060g
メイキャップ他行事参加	3名	3月末までの合計	195,950	15,050	73,225	—	—	1,060g
出席率	81%	達成率	78.00%	30.10%	146.50%	0.00%	—	21.00%

2018年3月例会報告

甲府21ワイズメンズクラブ書記 寺田喜長



3月例会の様子

2018年3月6日=山梨YMCA青少年センター

卓話者としては初めての高校生の作田留菜さんと甲府クラブの金丸三郎メンをお迎えし、佐藤会長の点鐘にて開会しました。今月の聖句、一言担当の茅野メンが急遽欠席されたため司会者が創世記6章11節を代読、お話が聞けず残念でした。3月の誕生者である松村豪夫メンのコメントは種々の役職を辞し自分の時間を取り戻し、新たな楽しみの時を過ごしているとのことでした。メイキャップ出席の金丸三郎メンには山梨YMCA移転代替地の購入にご尽力いただいている事に皆で感謝しました。鎌田メンにゲスト卓話者の紹介を頂き、作田さんから「国際ボランティアについて」と題してお話をいただきました。作田さんは母親の前で話すのは恥ずかしいとのことでお母様には席を外していただく事になりました。

駿台甲府高校美術デザイン科在学中の作田さんは、官民協働の留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」に応募し、株式会社林旅製作所とNPO法人GLOBE JUNGLEの共同企画、カンボジア、ネパールツアーに参加、3ヶ月に渡った種々なボランティア活動の体験を話されました。

ホームステイをした村は、電気や水道がなく、食べ物がハエで黒くなるような貧しい所で、食欲はなく、完全にホームシックにかかり、最初は毎日泣いていたそうです。ステイ先の方が、都市部のイオンへ気分転換に連れていってくれて立ち直ることができ、その後の活動が続けられたそうです。親のない子供が多く、日本人の女性が指導している孤児院では、社会に出ても全て自分でできるように厳しく育てられていて、生活費の一部は自分たちで練習した踊りで得ているそうです。不遇な環境の中しっかり自立しているとのことでした。日本の援助で建てられた学校は先生が不足していて毎日授業が行えないそうです。ハード面だけでなくソフト面でも支援が必要ではないかとのことでした。その学校で日本語の授業を受け持ち、子供たちは英語がダメ、にわか先生はクメール語がダメ、それでも気持ちで通じあい、2週間で日本語の挨拶ができるようになったそうです。貧しい中でも、恵まれている日本の若者より皆、夢を持っているとのことでした。その夢をかなえさせる為に現地に入り行動する事が必要と感じたそうです。貧しくて物が無いのです

が、遊びがあって、幸せはあるとのことでした。作田さんは便利になることと幸せになることは同じでない事を学んだそうです。

また、子どもとの交わりの他に井戸掘りを体験し、60メートルもパイプをねじ込む作業を手伝い、水を確保することがいかに困難かを実感したそうです。作田さんの日頃当たり前と感じていたことが当たり前でないことに気づくことができた体験をし、今後の活動に活かしていきたいという言葉が印象的でした。

諸報告では、4月7日のベビーカーコンサートの要項がCS担当より提示が有り、4月14日・15日の草津クラブとの合同例会の案内が報告されました。

日時：2018年3月6日(火) 19:00～

会場：山梨YMCA青少年センター

出席者：[メン]相川 稲垣 荻野 鎌田 功刀 輿水 後藤 駒田 佐藤 寺田 奈良田 野々垣 廣瀬 松村(調) 松村(蒙) 葉袋 山泉 山本

[ゲスト]

作田留菜さん 作田留菜さんのお母さん 金丸三郎メン(甲府クラブ)

自殺予防講演会に柳田邦男氏をお迎えして

甲府21ワイズメンズクラブ 功刀 弘



柳田邦男氏

皆様からご支援を頂いている「山梨いのちの電話」の主催で厚生労働省補助事業としてノンフィクション作家柳田邦男氏による公開講座が2月4日に県立文学館で持たれました。

テーマは「いま、生きているいのち」—そのかけがいのなさ—でした。その詳細はいずれ会報でまとめますが、柳田氏はこの機会にバルビゾン村にも行ったことのあるミレーの絵画をゆっくり観たいとの希望でした。甲府盆地は好天に恵まれ、南アルプスの白根三山も白く輝き、その風景にも感嘆の言葉が漏れていました。青空と雲の多様な変化にも興味があることを2時間のご案内と昼食の間に知ることとなりました。売店ではこういう趣味もあるのでと絵葉書とミレーの絵のついたバッグなどを購入されていました。

氏の著作は100点以上ありその活動は航空機の先端技術からグローバリゼーションの世界の動きとスマホの子供たちへの弊害から今では子供に絵本の読み聞かせの重要性を説き、

また、がん治療の最新技術などの紹介もあります。そしてその中に生きるまた死を迎える方々との心の交流が凝集した著作となっています。私は精神科を専門とていますがその分野でも河合隼雄氏との交流の著作を読みましたが、教えられることが少なくありません。

今回の講演を聴きながら私自身も身近な隣人への強い思いが重なり心に深く受け止められました。柳田氏は早く亡くなられた父親の思い出はなく、幼少時からの母の生き方「仕方なかんべさ」「なんとかなるべさ」「たいしたもんだ」との言葉を紹介し、12歳上の結核から復活した兄との関わりもご自身の活動の基盤となってきたことなど、氏の言葉の重みを感じざるを得ませんでした。講演の最後にはALSのために身体が全く動かなくなった2人・田中俊一氏と折笠美秋氏の歌を通しての生きざまを紹介し締めくくられました。

最後に全身の筋肉が動かなくなり、残った瞬きだけで文字盤を示して作った田中氏の歌を教えられました。

「歌詠まぬ日々の虚しさ 身に沁みて 亦も文字指す 書き留め頼み」

私の40年に渡る精神科治療の最大の協力者IさんがALSとなり、昨年ついに生きることを決心して人工呼吸器と胃ろうの手術をしました。次第に動かなくなってきた右手から懸命に記した詩2編を1週間前に送ってきたことが私の脳裏に迫ってきました。

柳田氏は腰痛から6月には脊柱の手術を予約していると語った後にミレーの作品の前でゆっくりと1時間かけて鑑賞されていました。バルビゾン村の観光資源としての保存の良さも説かれました。その柳田氏が2時間の講演を立ち続けて果たされ戻られた時にその労をいたわる言葉も忘れて私は講演の感謝の言葉のつもりでIさんのことを話さずにはいられませんでした。

Iさんの詩の返礼にはスライドで紹介された田中俊一と折笠美秋の歌のコピーを送りました。

地球を徘徊

甲府21ワイズメンズクラブ 葉袋 勝

この原稿の締め切り日には、東、東南アジア徘徊シリーズ最後の台湾徘徊が終わりに近づいている頃と思います。マレーシア、ラオスなどはまだですが・・・。

廻った国名は字数の都合で省きますが、この国々の共通した印象は、オリンピック開催準備や都市開発のため突走していた70年代の日本の姿を思い浮かべます。地下鉄や高速道路建設、ビルの新築など特に都会で変化が大きく、もし1年後に訪れたならば別天地になっていると思われます。また、田舎の方の状況も70年代の日本と異なり、変化が速く動いている様に感じられます。これはネットがどんな所にも繋がっており、情報が都会（ニューヨークとでも）と共有化され表面的にはまったく不便が感じられないかもれません。徘徊者にとってこれは大

変都合がよく、出発前に家で寝ころびながら汽車やバスの予約支払い、地図を見ながら田舎のホテルの予約があっという間にできてしまいます。後は、現地の情報（おいしいレストラン、タクシーやバスの乗り方と値段、見逃せない観光地など）をチェックすれば私の徘徊は半分終わった様なものです。この便利さは、当然現地の方々も享受しており、スマホが人々の間で大いに活躍しております。10年前でしたら、PC利用が中心だったので一般的で無かったのですが、安い中国製のスマホ普及の影響は驚きました。

あと一つの共通した印象としては、宗教がまだ生活の中で生きていることです。これらの多くの国々には、日本の大乘仏教と異なった上座部仏教が布教されています。上座部仏教は厳格な出家主義であり、僧侶に布施をすることが信者にとって重要な信仰であり、また若いときに一度は出家もします。私の習慣である早朝の徘徊で、小坊主（小学生？）や老僧を含めた僧侶の行列が、街角に立った老若男女の信者より食事を含め日用雑貨までお布施を受けている光景が眺められ、朝は町全体に仏教が息衝いている様に思われました。このような信仰が、これらの国々の人々が穏やかに見えることかもしれません。しかし、口ヒンギャ問題に象徴されるように、宗教的対立もあり穏やかな状況と全く異なる世界もあることも無視できません。

仏教と言えば、世界三大仏教遺跡：アンコールワット、バガン、ポルブドールを制覇したのは、この徘徊シリーズの成果かもしれません。さてこれから何処へ徘徊しましょうか？寒さに震えて北極で、オーロラ見物もいいかもしれません。この表題の「地球を徘徊」ですが、過去7年間で歩数計の積算値は22,802Km。地球半周分になり、まだ地球徘徊途中と言えるでしょう。



ミャンマーの若い尼僧の托鉢

男の一人旅 鉄ちゃん旅行記 5

甲府21ワイズメンズクラブ 相川貴宏

平成22年に68歳をもっての完全リタイアから早7年経つ。現役時代から憧れていた「一人旅」も日帰りを含めれば今回で7回となる。うち4回は東北だ。何故か東北に足が向いてしまう。過去4回の旅行の宿泊地を記してみると、青森・秋田・函館・本八戸・郡山・釜石・久慈・本八戸・石巻・気仙沼・雫

石・と圧倒的に太平洋側が多い。東日本大震災の復興を見たいとの気持ちがあったのだろう。現に復旧した三陸鉄道南リアス線釜石、盛駅間は老人クラブや婦人会のバス利用で満員の電車に乗ってきた。石巻線、気仙沼線、大船渡線等BRT（バス高速輸送システム）も利用し復興未だを実感してきた。

さて、今年はどうしよう。そうか未だ足をあんまり向けていない日本海側へ、盲腸線（起点もしくは終点が他の路線と接続していない行止り路線）、それとサンライズの“乗り鉄小山兄”にアドバイスされた「秋田内陸縦貫鉄道」に乗ろうと計画に手を付けた。

平成29年6月23日（金）石和8:17発かいじ104号で東京へ、東京から新幹線「Max とき」で長岡へ向かった。長岡からは信越本線で東三条へ、ここから弥彦線（盲腸線）で東三条～吉田～弥彦、帰りは弥彦～吉田と往復し新潟へ向かった。駅前のビジネスホテルへ投宿。ホテル前の居酒屋で越後蔵元5銘柄飲み比べを堪能し爆睡。

24日新潟8:43発羽越本線・白新線で坂町、坂町から米坂線で今泉駅11:00、山県線（盲腸線）で荒砥と往復、約3時間かかる。荒砥での待合せ時間2時間。駅辺なにもなし。町の食堂まで歩いて30分との事。

タクシーもなく11時半から13時半まで駅内で時間をつぶす。盲腸線の辛いところである。昼飯代わりに缶コーヒーを2本飲み13:55今泉に戻る。今夜の宿泊を山県でとネットで探したが全日本陸上大会の最中で取れず米沢泊にする。米沢と山県の間には茂吉記念館がある。ここは素晴らしかった。生憎茂吉の短歌を解する能力は無いが茂吉の生涯を通して醸し出した歌の数々に魅せられ時を過ごした。奥羽本線で米沢に戻り宿泊。

25日米沢8:06～山県8:51、山県9:17フルーツライン左沢線で左沢10:03。さすがフルーツライン、サクランボ狩りと菖蒲祭りで大混雑でした。昨日に懲りてとんぼ返り、10:10左沢～山形10:50、奥羽本線で新庄12:52。昼食は鉄ちゃん仲間ではちょっと有名な「急行食堂」へ。小汚いラーメン屋である。地獄ラーメン（辛い）天国ラーメン（白っぽい）とあるが鳥もつラーメンを注文する。もつ全ての部位が入っているみたいなラーメン、味は濃い目だが美味しかった。

陸羽本線で酒田へ。羽越本線酒田から羽後本庄16:41。盲腸線の由利高原鉄道・鳥海山ろく線羽後本庄～矢島間を往復し秋田へ向かった。秋田着19:36。リッチモンドホテル秋田駅前には名ばかり、何も無い西口から僕の足で20分かかった。

もう外へ行く気力が無い。3日目で疲れてもいる。幸いホテル隣にセブンがある。今夜は一人居酒屋だ。セブンの食べ物おらずにひとり飲み、シャワーをして眠ってしまった。

最終日26日、今日は「秋田内陸縦貫鉄道」一本で行く。何せ小山兄一押しのお勧めの鉄路だ。

奥羽本線秋田9:45～鷹ノ巣11:09。JRと秋田内陸縦貫鉄道は駅舎が違う。発券売り場で角館までの切符を買い中国料理屋で昼食。繁盛店で混雑したが美味しかった。鷹ノ巣から

角館への直通電車は特急を入れて5本、阿仁合乗換で8本しかない。12:30阿仁合へ出発。電車は直線で走る距離が多い。森や林を直線に切り開き走る。深い谷を渡り時折開けた処に出てやっと家を見ることができる。まさに内陸を縦貫していることが実感できる。阿仁合で乗換、女性車掌が乗り込んでくる。

角館へ出発、乗客は2人しかいない。案内と物品販売だ。2人でも手を抜かない。ビールと土産少々を買わざるを得ない。

角館15:10着、長い道のりだった。角館は24年に来ている。駅前のカフェで一休み、店に入ると「大人の休日クラブの旅ですか」と声を掛けられる。つい土産にジャムとドレッシングを購入。秋田新幹線で帰路へ。石和へ22:34に着き長い4日間の旅を終了しました。



【4月の誕生者】

【メン】 稲垣浩司 （4月24日生）

■今後の予定

4月 7日（土）

第1回ベビーカーコンサート in 甲府
（山梨県立図書館）

4月14日（土）・15日（日）

草津クラブ合同例会
（滋賀県）

4月17日（火）

第2例会
（山梨YMCA）